

男鹿ではじめる 校舎活用プロジェクト



廃校舎等利活用提案及び廃校施設概要書



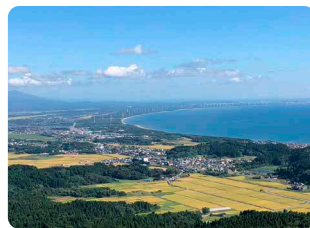
秋田県 男鹿市

広い海 緑の山 輝く太陽のまち

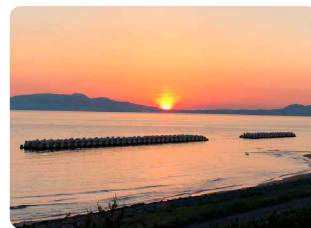
秋田県臨海部のほぼ中央、日本海に突き出た男鹿半島の大部分を占める男鹿市は、多彩な表情をみせる海岸線や緑濃い半島中央部の山並み、また、寒風山などのなだらかな丘陵、水辺に広がる田園風景など、特徴的で変化に富んだ自然が多く、水と緑に囲まれた美しい地域です。青い海と緑の山々、変化に富んだ美しい自然景観は、昭和48年に国定公園の指定を受けています。

海、山ともに恵まれた男鹿半島は、海釣り、遊覧船、海水浴、パラグライダー、トレッキング、海岸線のドライブなどさまざまなアウトドアアクティビティのフィールドとしても絶好のスポットです。

三方が海に開かれた男鹿半島の地理的特性を生かし、海藻などにCO2を吸収させる「ブルーカーボン」の推進などに取り組むことで、2050年までに市内で排出する二酸化炭素の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を2023年に宣言しました。



▲寒風山から日本海を一望



▲日本海へ沈む夕日



▲干潮時に全体を現す奇岩「小豆岩」

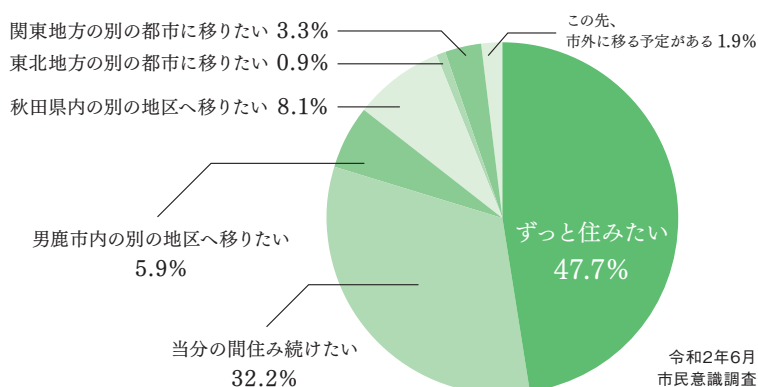


▲日本の渚100選に選ばれた鵜ノ崎海岸

「住みやすさ」の指標と生活圏

雪深いイメージがある秋田県の中でも沿岸部に位置する男鹿市は比較的積雪が少ない地域です。近年では若い人材が移住して活躍する人も多く、雄大な自然美と古来からある伝統文化や歴史に、若い感性による新しい風が入り混じる魅力的なエリアです。クラフトサケやビールの醸造所が開設されるなど新たな動きも始まっています。

〈定住志向について〉



県庁所在地の秋田市までの距離が35～40km、能代市までもほぼ同距離であることから、両市の経済圏、通勤圏ともなっています。

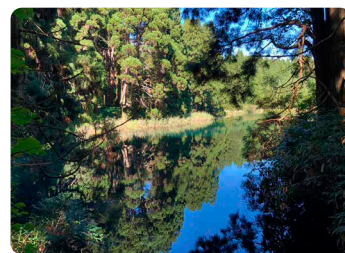


豊かでおいしい水質

五里合地区にある滝の頭湧水は、寒風山への降雨、降雪が地下浸透し、火山岩の亀裂や基盤岩との境界付近を通り、20年以上の時をかけて湧水しています。年平均1日約25,000m³が安定的に湧水しており、水道用水、農業用水として利用され、市民の生活に重要な存在となっています。重炭酸ナトリウム型で良好な水質の水は、「まるやかでおいしい水」として、浄水場わきに設けられている水汲み場には、連日多くの方が訪れます。また、北浦地区にある一ノ目



▲一ノ目

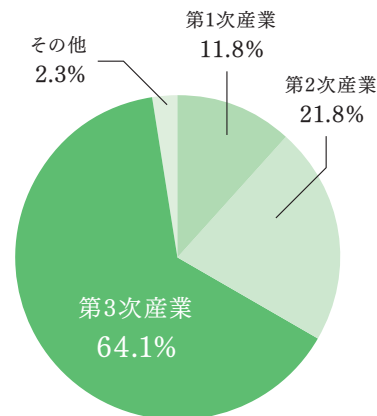


▲滝の頭

淵は、火山の形態の1つであるマール(爆裂火口)に水が溜まってきた淡水湖で、天然記念物に指定されていますが、周辺地域の水源としても活用されています。このほかの水源も含め、水量豊かで良質な水により、市民の生活や産業が支えられています。

男鹿市の主な産業

男鹿市は、男鹿国定公園として指定を受けた、恵まれた自然景観や文化財など観光資源を活かした観光業、稲作・メロン・和なし・大豆等の農業、良好な漁場を多く有する水産業が中心産業となっています。産業別就業人口の推移は、第1次産業、第2次産業従事者の割合は減少傾向にあるものの、第3次産業の割合は増加傾向で推移しており、令和2年においては、第3次産業従事者の割合が全体の約6割を超えています。



観光業について

ユネスコ無形文化遺産「男鹿のナマハゲ」は男鹿のみならず秋田県を代表する文化財です。地区ごとに風体異なる150体を超えるナマハゲが展示された「なまはげ館」、大みそかの行事を再現する「男鹿真山伝承館」ではここでしか味わえない「ナマハゲ」を体験することができます。加えて男鹿水族館GAO、男鹿温泉郷といった拠点施設や、半島の西北端、北緯40度線上に位置し、「日本の灯台50選」に選ばれた灯台が印象的な「入道崎」、芝生で覆われた山容と頂上付近から望む360度の風景を楽しむことができる「寒風山」などの自然資源等、多くの観光資源に恵まれています。



▲ユネスコ無形文化遺産「男鹿のナマハゲ」



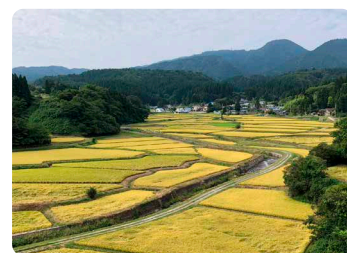
▲白と黒のモダンなデザインの入道崎灯台

男鹿半島プロモーションムービー



農業について

稲作を中心としながらメロン・和なし・ねぎ・花き・大豆等を生産し、土地保全や自然環境維持の役割を果たし、多彩な食材を提供しています。しかし、近年は、農家戸数は年々減少していますが、大規模ほ場整備が進められ、ねぎの大規模経営に取り組むなど新たな動きが見られます。



▲棚田のある風景

水産業について

秋田県における海面漁業漁獲量の半数を男鹿市が占めるなど、県内最大の漁場を有しています。秋田県の県魚でもあるハタハタをはじめ、漁獲量が全国トップクラスのギバサのほか、タイ、サケ、サクラマスなど特色のある特産魚種が水揚げされています。水産資源と漁獲量の確保を図るため、アワビやガザミなどの種苗放流や増養殖等の「つくり育てる漁業」、付加価値を高める水産加工などの取組に支援しています。



▲秋田名物「ハタハタ」の産地

移住・起業に関する基本的な考え方、支援

若者が新規事業を始めることに関しては、新しい産業や就業機会を作り出すとともに、若者個々人の人生の選択肢を広げ、持続的な経済成長を実現していくうえで大変重要であると考え、以下の支援を実施しています。今後もさらなる支援を検討していく方針です。

起業支援 ▶ 男鹿市中小企業創業資金保証制度／空き店舗等利活用促進事業

移住支援 ▶ 東京圏からの移住支援金(子育て加算あり)／住宅取得等支援事業／移住活動支援補助金

〈若美地区〉

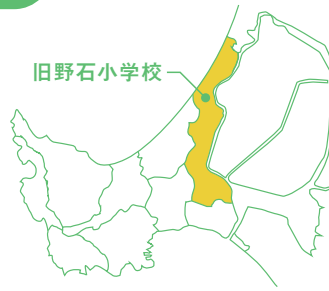
旧野石小学校

海が近いフルーツの産地。

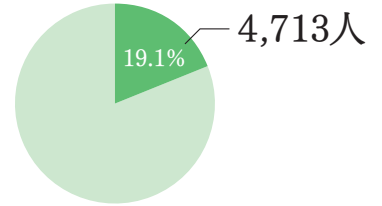
旧野石小学校がある若美地区は男鹿市北東部に位置します。長さ300m、奥行50mのビーチで快水浴場百選にも選ばれている宮沢海水浴場があり、真夏には大勢の海水浴客で賑わうエリアです。海岸付近には、夕陽温泉WAOやコテージ、オートキャンプ場が整備されています。海洋レクリエーションエリアとしての立地条件を活かし、約1割の漁船が遊漁船登録を行い海釣りの場を提供しています。

海産物のイメージが強い男鹿にあって、若美地区はフルーツの産地。秋田美人メロン、レッドメロンの全国的にも有名な産地となっています。このほかに米、ブドウ、葉たばこの生産も盛んです。干拓地農業で知られる大潟村とも隣接しています。

旧野石小学校は県庁所在地である秋田市まで車で60分、能代市まで車で40分です。このことから能代圏への買い物・通院・通勤の割合も高くなっています。



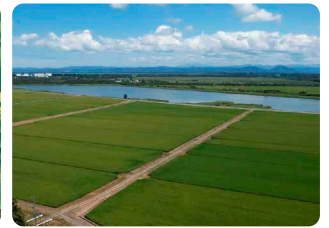
男鹿市内における
当地区の人口割合



▲快水浴場百選に選ばれた「宮沢海岸」



▲フルーツの産地

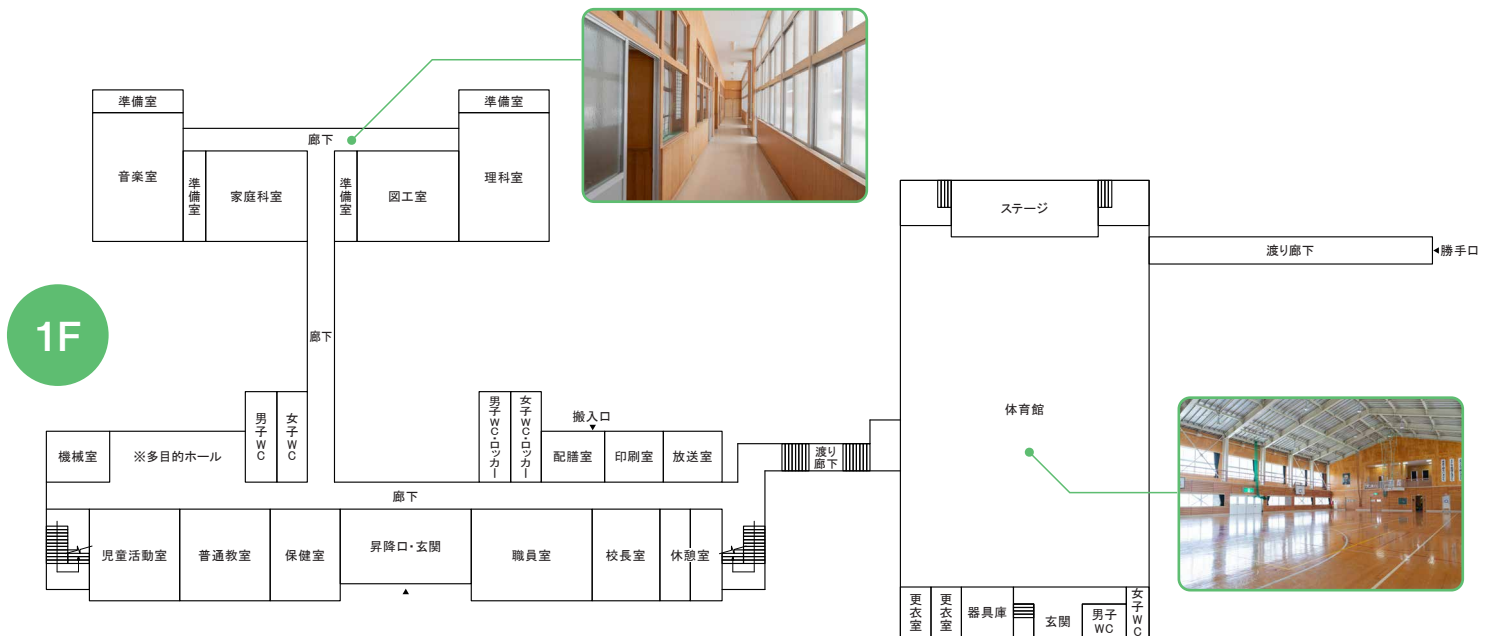


▲若美地区に広がる水田



旧野石小学校

建物は2階建の教室棟と、1階建の特別教室棟、体育館の3棟があります。教室棟と長い廊下でつながる特別教室棟は、吹き抜けで天井が高く、明るい広々とした空間が特徴的です。体育館と校舎は高低差があり、階段になった渡り廊下でつながっています。現在、地域の児童クラブが体育館の一角を使用して運営されています。鉄筋コンクリート造校舎の耐用年数47年に対し、2023年時点で築31年であること、丁寧に使われてきたことが伺える状態の良さ、高台にあって見晴らしがよく、風通しと日当たりの良さなど条件の良さもあり、活用の道を探りたい建物の一つです。



活用例のアイデア

高齢者ヴィラを中心とした複合施設に

高齢者用住居を中心としながらも、移住者や若い世代など多世代の住まいを提供。医療ケア、高齢者ケアも充実させ、医療従事者が住める住まいもつくります。さらに地域に開かれたコミュニティゾーンを設置。野外ステージを生かした交流ホール、オーシャンビューを生かしたカフェ、産直市場、アートギャラリーなど、このエリアに住む人も観光で訪れる人も、子どもから大人までともに楽しめる場所を作ります。また2、3階の普通教室は宿泊施設として活用。居住する家族、旅行者、移住希望者の男鹿お試し宿泊の拠点としても機能します。



漁業スタートアップの集積エリアとして

生産現場(各漁港)との近さ、良さを活かした、漁業スタートアップを集積させたインキュベーション施設として活用。スマート漁業、加工所、漁業経営に関する知識をつけられるビジネススクールの機能(近隣住民も学びに来られる)など、ここで新たなものを生み出すほか、近隣の漁業従事者との連携を生み出します。



リゾート施設

男鹿市の中心市街地から離れたエリアであり、そこに温泉施設や文化施設、撮影スポット、海を使ったアウトドアアクティビティの体験スポットが集積していること、また男鹿市内で最も観光客を集める男鹿水族館GAOのある戸賀エリアとも隣接していることから、学校をまるごとリノベーションしたリゾート施設としても可能性があるかもしれません。



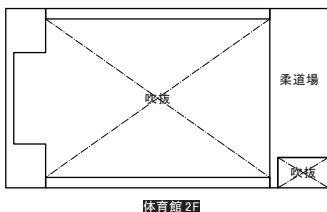
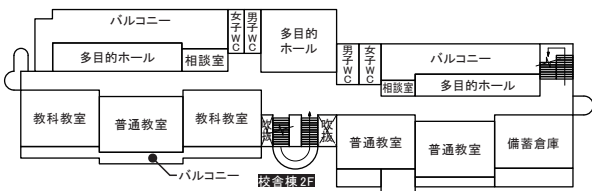
その他のアイデア

- 食堂・調理室の広さを利用して **加工所**
- 土地の広さを利用して **倉庫** **資材置き場** **養殖場** **醸造所**
- 自然豊かな環境を生かして **通信制高校のスクーリングの拠点**

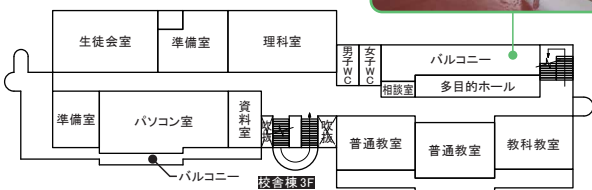


参考画像：西栗倉・森の学校

2F



3F



校名	旧男鹿北中学校(令和4年閉校)			
所在地	男鹿市北浦北浦字山王林40			
都市計画区域	都市計画区域内 非線引区域			
用途地域	なし	敷地面積	19,278㎡	
給水方式	受水槽	排水方式	浄化槽	
ガス	都市ガス	暖房	都市ガス	
	延床面積	構造	施行年	耐震
校舎	3,300㎡	鉄筋コンクリート造	平成2年	あり
体育館	1,237㎡	鉄骨造	平成2年	あり
グラウンド	25,524㎡	—	—	—
プール	あり	—	—	—
物置	20㎡	鉄骨造	平成5年	—
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・JR男鹿線羽立駅から車で20分 ・秋田自動車道昭和男鹿半島ICから車で45分 			
買物	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームックニコット男鹿北浦店(北浦地区)まで徒歩22分、車3分 ・ドジャース男鹿店(船川地区)まで車で22分 ・浮田商店(北浦地区)まで車で3分 			

〈船川地区〉

船川北公民館

(旧船川第二小学校)

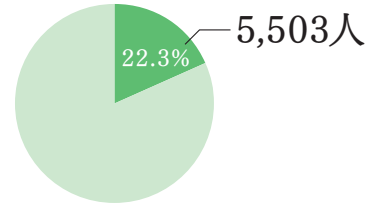
中心市街地にアクセス良好

船川北公民館(旧船川第二小学校)がある船川地区は男鹿市の中心部に位置します。JR男鹿線が通っており、男鹿観光の基点となる男鹿駅と羽立駅があります。また、市役所、図書館、市民病院、道の駅おが「オガーレ」があります。夏には海水浴・キャンプで大きなにぎわいを見せる鵜ノ崎海岸があり、県内外からの訪問客も多いエリアです。男鹿総合運動公園(体育館、野球場、陸上競技場、球技場、テニスコート)に隣接していることから、男鹿のスポーツ振興のエリアといえます。

旧船川第二小学校の統合(船川第一小学校へ統合)時に地域の要望により、船川北公民館を開設。現在は公民館として使用されるほか、館内に、地域子育て支援センターが常設されています。令和4年度の船川北公民館の利用者数は、3,213人でした。



男鹿市内における
当地区の人口割合



▲新しくなった男鹿駅前



▲総合体育館

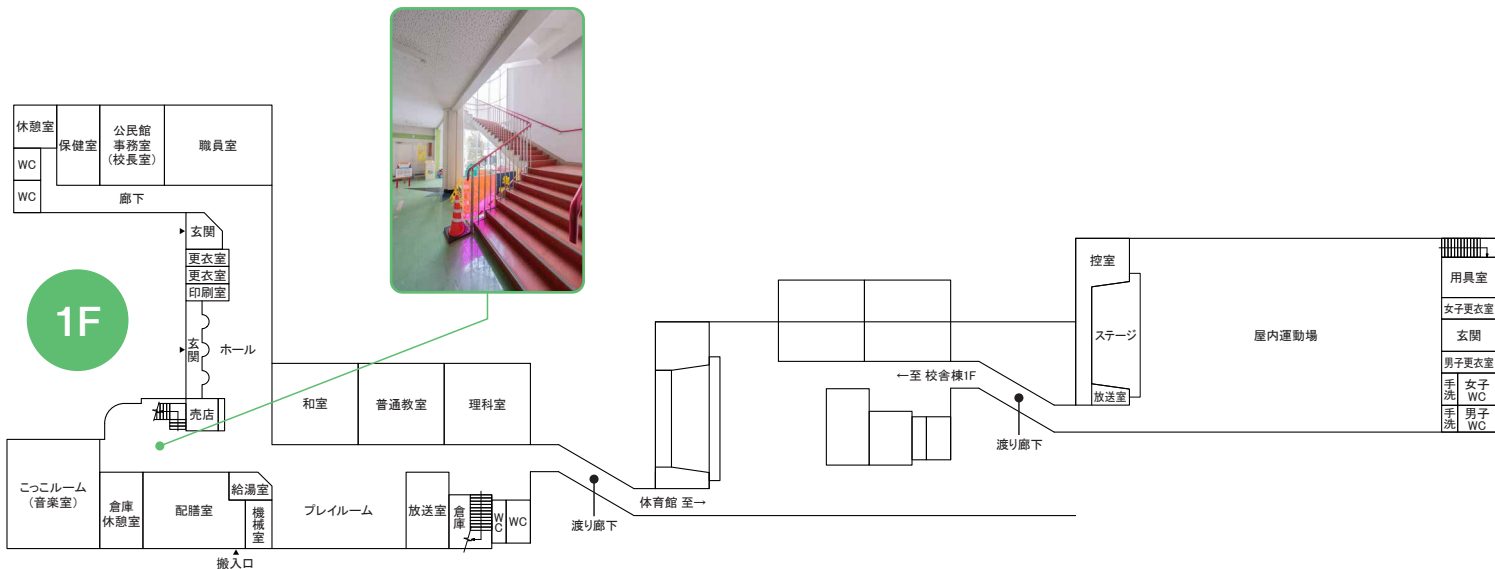


▲全国からチームが集まり大会が開催される



船川北公民館(旧船川第二小学校)

建物は2階建てで、教室棟と体育館の2棟が渡り廊下でつながっています。教室棟にある校長室は現在公民館職員1名体制で平日常駐しています。普通教室4室のほかは図書館、家庭科室、パソコンルームなどがあります。音楽室は「こっこルーム」として活用されています。まちなかという立地のため、ほかの2校に比べると規模は小さめ。その分生活圏としては複数のショッピングセンターやスーパーへのアクセスが良好です。



活用例のアイデア

スポーツパーク

冬の間、屋外でのスポーツにかなりの制限がかかるのが北国の課題です。そこで屋内でもできるジム、ボルダリング、トランポリン、スケートボードなど冬もできるスポーツをここに集積させ、活用するというアイデア。隣接する男鹿総合運動公園とも連携するなど、市民の健康促進のほか、冬場の遊び場不足という子育て世代のお悩みに応えます。



薪で沸かす銭湯

市内の多くの方にとってアクセスのいい立地を生かして、地元の間伐材を使って沸かす銭湯を作るアイデア。地域の方の商品が買えるショップや、地域の方々の集いと憩いの場としても機能します。



アーティストインレジデンスの拠点として

3校のなかではもっとも他所からのアクセスが良好な立地と、あの岡本太郎をも魅了した「男鹿のナマハゲ」等、豊富な文化資産があるエリアの特性を活かし、小学校をまるごとアートを軸にリノベーション。ギャラリー機能、アーティストの宿泊所の機能などを持たせて地域のストックを活用し、地域に新しい形で還元する取り組みを行います。

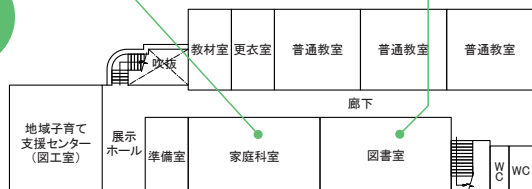


その他のアイデア

- 海からのアクセスの良さをいかして 食品加工所
- 公民館の延長として 有料版体験教室(ワークショップ)の拠点



2F



校名	船川北公民館(校舎のみ現在使用 旧船川第二小学校は平成16年閉校)			
所在地	男鹿市船川港比詰字大沢田44-4			
都市計画区域	都市計画区域内 非線引区域			
用途地域	なし	敷地面積	4,778㎡	
給水方式	直結	排水方式	浄化槽	
ガス	都市ガス	暖房	灯油(地下タンクあり)	
	延床面積	構造	施行年	耐震
校舎	1,889㎡	鉄筋コンクリート造	昭和58年	あり
体育館	730㎡	鉄骨造	昭和58年	あり
グラウンド	6,536㎡	—	—	—
プール	あり	—	—	—
物置	—	—	—	—
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・JR男鹿線羽立駅から車で5分 ・秋田自動車道昭和男鹿半島ICから車で30分 			
買物	<ul style="list-style-type: none"> ・ツルハドラッグ男鹿船川店まで車で3分 ・ドジャース男鹿店(船川地区)まで車で9分 ・マックスバリュ男鹿店(脇本地区)まで車で9分 			

廃校施設の活用状況

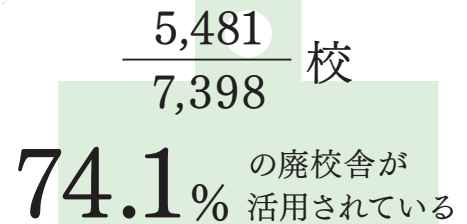
令和3年5月1日現在、平成14年度から令和2年度に発生した廃校で施設が現存している7,398校のうち、5,481校(74.1%)が社会教育施設や社会体育施設等の公共施設のほか、体験交流施設や福祉施設などさまざまな用途で活用されています。

また、近年では地方公共団体と民間事業者とが連携し、創業支援のためのオフィスや地元特産品の加工会社の工場として廃校施設が活用されるなど、地域資源を活かして、地域経済の活性化につながるような活用も増えてきています。

全国で1年間に
約450校が
廃校に



利用されている廃校舎の数



文部科学省「廃校施設等活用状況実態調査」(令和3年5月1日現在)

廃校活用のメリット

- 1 既存物件を使用できるため新築と比べるとローコスト
- 2 「廃校利用」という話題性による高い宣伝効果
- 3 地域の人々が愛着ある施設を使うことで地域密着が可能
- 4 広くて使い勝手の良い空間・十分な敷地が確保できる
- 5 地域住民にとっては通いやすい立地
- 6 静かな環境で業務効率化できる(音の出る作業でも大丈夫)
- 7 高い社会的貢献度

少子化に伴う児童生徒数の減少等により、全国では毎年約450校程度の廃校施設が生じています。地方公共団体にとって貴重な財産である廃校施設を有効活用し、地域の実情やニーズを踏まえながら有効活用していくために、民間企業、教育・研究機関などと連携しながら柔軟に対応していきます。

全国の事例から考えられる活用例



ドローン研究向けの複合施設

アクセスの良さと広い敷地を生かして研究施設と試験場を隣接させる。(参考画像: ドローンフィールドkawachi)



子育て支援施設

親子で楽しく遊べるプレイルーム、乳幼児検診室、学童クラブ等、地域の子育てをサポートする場として。(参考画像: アーツ千代田 3331)



市民農園

シェアオフィス、レストラン、ゲートルーム、小屋付き農園スペースからなる多目的施設「シラハマ校舎」などを参考に。



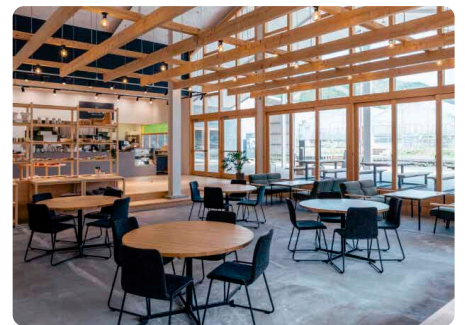
道の駅

広さを生かして地域の海農産物や加工品を販売。元教室を宿泊施設や食堂にして学校のもつ「懐かしさ」をエンターテインメントに。



ものづくりのインキュベーション施設

デザイン・建築・映像・食・アートなど、クリエイターがオフィスとして活用する。(参考画像: アーツ千代田 3331)



カフェ・コミュニティスペース

近隣住民にとってのアクセスの良さを生かしてカフェ、コミュニティスペースとして活用する。(参考画像: base101)



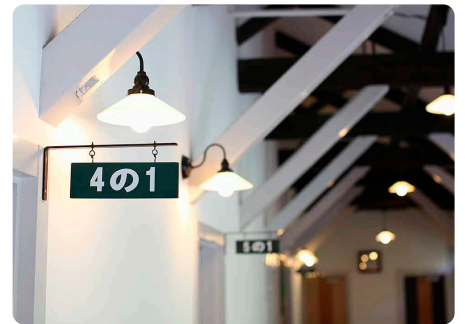
住宅、別荘

集合住宅を水平展開。校舎はコワーキングやコミュニティカフェとして活用し、住む・働くを隣接させる。(参考画像: シラハマ校舎)



養殖場

海と隣接する利点も生かしつつプールを養殖場に。男鹿水族館とも連携し、「男鹿の魚」を見る(水族館)→食べる(養殖場)などの企画も。(参考画像: ひかり養殖場)



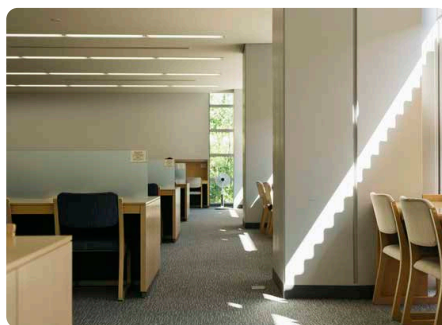
宿泊施設

レトロな校舎の風合いを楽しめる「学校に泊まる」非日常の体験を提供する宿泊施設として。(参考画像: いこうよ西伊豆)



学びの施設

IT技術や6次産業化や第一次産業の経営にまつわるノウハウを学べる場として地域に再び学び舎を開放する。(参考画像: sumika[長南集学校])



コワーキング/シェアオフィス

学校の建物は座って作業をする広いスペースとしてそのまま活用しやすく、オフィスと親和性が高い。

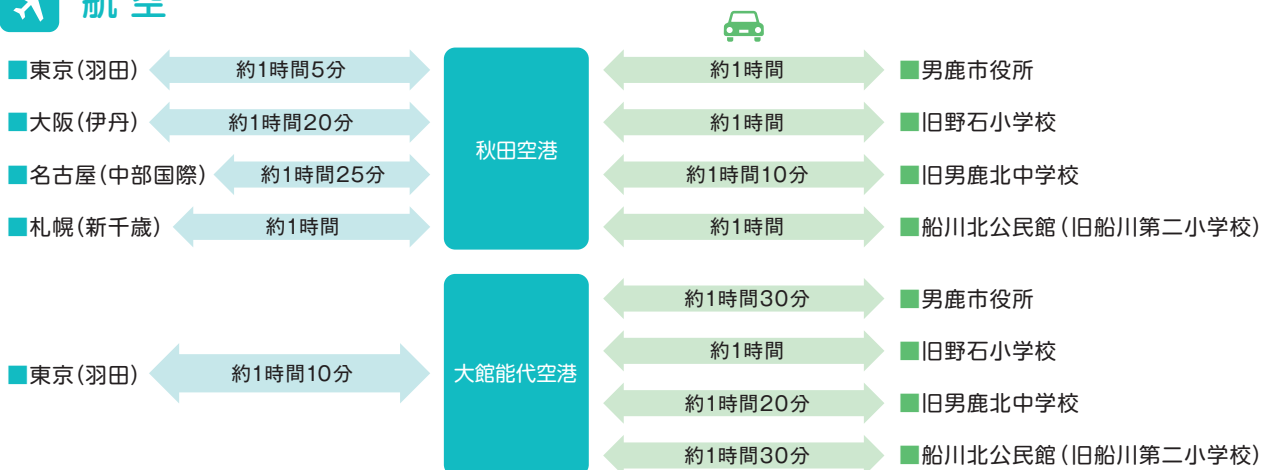


子ども園、託児所

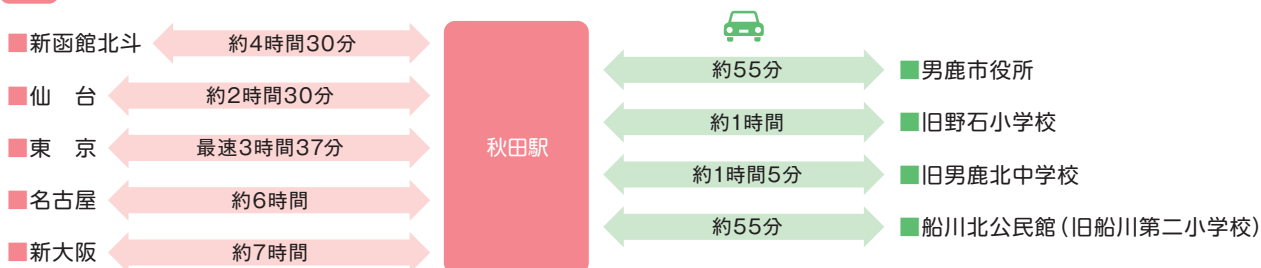
学校に入居した企業が企業主導型保育事業を展開。従業員のほか、地域にも子育ての場を開放する。



航空



新幹線



〈お問い合わせ先〉

校舎に関すること

教育委員会教育総務課総務班

TEL / 0185-24-9100 FAX / 0185-24-9156

MAIL / kyouiku@city.oga.akita.jp

企業立地支援に関すること

男鹿まるごと売込課エネルギー・商工港湾班

TEL / 0185-24-9143 FAX / 0185-24-9159

MAIL / syoukou@city.oga.akita.jp

〈所在地〉〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1(男鹿市役所)